

2013年度若手研究助成

## 触法者におけるリスクアセスメントのための知的発達評価技法の研究および開発

研究代表者 宇野 洋太（名古屋大学）

### ▶ 研究の概要（助成開始時）

犯罪受刑者中に、知的障害者が多く存在している。しかしそのほとんどが障害に気付かれておらず、必要な援助を受けられなかった結果、不適応状態をきたし、犯罪・非行化している現状がある。したがって早期から適切に知的発達の遅れを発見し、適切な支援を実施する必要がある。

日本で使用されている知能検査は個別式のものがほとんどで、多くの時間と専門的技術が必要であるため、実施場面や状況、対象が限られる。したがって簡便に使用でき、汎用性の高い知的発達の評価技法の開発、検討が求められている。

本研究は様々な場面で簡便に使用でき、汎用性の高い集団式知能検査法新田中B式検査の標準化を行う。標準化に際しては、内的整合性や国際基準である Wechsler 式知能検査との基準関連妥当性を検討する。また、獲得した新田中B式検査のスコアによって、真に知的障害であることの確率を算出できるようにし、知的障害と診断するのに有効な検査値を設定するなど、臨床的な実用性の検討も行う。

このことで早期に介入したり、また犯罪に至ってしまったものに対しても、知的発達を考慮したテーラーメイドの再犯防止策を講じることができるようになると考える。

### ▶ 選考委員会からのコメント

知的障害から不適応状態をきたし、非行・犯罪化している者たちに対する早期の介入の必要性は高い。そのための基礎的データを集団式と個別式の知能検査の関連から得ようとするとする本研究の意義は大きい。